

1. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称	学校法人松本昭和学園
②所在地	松本市里山辺 4202
TEL	0263-32-3701
Fax	0263-35-9080
e-mail	office@excellent.ed.jp

(2) 建 学

本学は、創立者の故土手内頼人が戦後復興を子供たちに夢を託して、昭和 27 年松本市東町に長野県公認文化華道学院を設立し、「花を愛し美を創造する豊かな感性を培うと共に思いやりの心を育み責任感の旺盛な実践力のある人材の育成」を建学の精神に据え、学校づくりに励み、普通科・美術科・福祉科の 3 科を持つ学校へと発展させて来た。生徒が建学の精神のもと「豊かな心と身体を持つ人物」に育つための学びが十分に出来る教育環境を提供すること、そこで働く先生方や職員が「健康で明るく余裕をもって仕事に臨める」ことを肝に銘じて学園づくりをしている。

(3) 学校法人の沿革

昭和 27 年 4 月	長野県公認文化華道学院設立 松本市東町 学院長 土手内頼人(喜多原頼園)
昭和 28 年 6 月	学校名変更 松本高等家政学校
昭和 35 年 4 月	校舎移転 松本市里山辺(現在地) ・ 校名変更 昭和高等実業学校
昭和 41 年 10 月	体育館落成
昭和 43 年 11 月	学校法人松本昭和学園 設立認可 ・ 理事長 土手内頼人 就任
昭和 43 年 12 月	昭和園芸高等学校 設置認可 ・ 初代校長 土手内頼人 就任
昭和 44 年 4 月	昭和園芸高等学校 第 1 回入学式举行 第 2 代学校長 上島周蔵 就任
昭和 47 年 1 月	第 3 代学校長 飯沢義衛 就任
昭和 47 年 3 月	第 1 回卒業式举行
昭和 49 年 10 月	高等学校昇格 5 周年記念事業 校歌制定
昭和 59 年 4 月	第 4 代学校長 御子柴秀雄 就任
昭和 61 年 4 月	第 5 代学校長 栗田英玄
昭和 62 年 1 月	西校舎増改築
平成元年 4 月	創立 35 周年・高校昇格 20 周年記念事業式典举行 (東校舎落成)
平成 4 年 4 月	第 6 代学校長 小林啓章就任 合宿研修棟・園芸実習棟落成式典举行
平成 5 年 4 月	文部大臣表彰(国体運営貢献;花種子贈呈)
平成 7 年 5 月	海外研修旅行実施(韓国)
平成 8 年 4 月	南校舎(普通教室棟)落成式典举行
平成 9 年 4 月	第 7 代学校長 降旗宗雄 就任
平成 10 年 4 月	創立 45 周年・高校昇格 30 周年記念式典举行
平成 11 年 4 月	校名変更 →エクセラン高等学校 普通科 →コース改編(生活園芸・環境園芸・生活文化・国際文化・社会福祉) 美術科 →設置
平成 12 年 5 月	海外研修旅行目的地変更(オーストラリア)

平成 12 年 7 月	創立者土手内頼人理事長逝去	第 2 代理事長土手内始男就任
平成 12 年 7 月	厚生大臣表彰(献血協力貢献)	
平成 13 年 1 月	美術科海外研修旅行実施(フランス)	
平成 13 年 4 月	福祉科 設置 (普通科; 社会福祉コース廃止)	
平成 13 年 5 月	海外研修旅行ホームステイ実施(オーストラリア)	
平成 14 年 4 月	第 8 代学校長 武藤行雄 就任	制服全面改定
平成 14 年 6 月	美術科教室増築及び情報教室全面改築	
平成 15 年 11 月	創立 50 周年記念式典 举行	
平成 17 年 12 月	高大交流協定締結(長野大学社会福祉学部)	
平成 19 年 4 月	第 9 代学校長 須澤真広 就任	
平成 19 年 6 月	国土交通大臣表彰(緑化推進)	
平成 20 年 1 月	第 2 代理事長土手内始男 逝去	第 3 代理事長栗田英玄 就任
平成 20 年 11 月	海外研修旅行目的地変更(ハワイ)	
平成 21 年 4 月	福祉系高等学校(介護福祉士養成)指定認可	
平成 22 年 3 月	高大連携協定締結(松本大学・松商短大)	
平成 22 年 4 月	第 10 代学校長 五味秀彦 就任	
平成 22 年 9 月	創立 60 周年記念事業(校舎耐震補強)	
平成 23 年 4 月	創立 60 周年記念事業(制服全面改定)	
平成 23 年 11 月	海外研修旅行目的地変更(サイパン)	
平成 24 年 4 月	普通科コース改編(園芸農業・生活文化・環境科学・国際理解)	
平成 24 年 10 月	福祉科ノーフュンス高等学校(デンマーク王国)と交流	
平成 24 年 11 月	創立 60 周年記念式典 举行	
平成 24 年 11 月	海外研修旅行目的地変更(台湾) 国立彰化女子高級中学校と姉妹提携	
平成 26 年 4 月	第 11 代学校長 安藤善二 就任	
平成 26 年 6 月	第 4 代理事長 五味秀彦 就任	
平成 28 年 3 月	女子寮閉寮	
平成 28 年 11 月	校地取得(東側住宅地 3 軒)	
平成 28 年 12 月	「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」	内閣府担当大臣賞受賞 環境科学コース
平成 29 年 3 月	「REHSE」発表会(東京大学)最優秀賞受賞	
平成 29 年 6 月	第 5 代理事長 本郷一彦 就任	
令和元年 8 月	創立 70 周年記念事業スタート(校地取得・福祉科教室改修)	
11 月	福祉科研修旅行(デンマーク王国)・美術科研修旅行(パリ再開)	
令和 2 年 4 月	第 12 代学校長 西沢 宏 就任	
令和 3 年 3 月	福祉科教室改修工事完工	
令和 4 年 11 月	学校創立 70 周年記念式典举行	
令和 5 年 10 月	福祉科ノーフュンス高等学校(デンマーク王国)と交流	
令和 6 年 2 月	校地取得(里山辺 4206)	

(4) 設置する学校等

エクセラン高等学校	全日制課程	普通科
	全日制課程	美術科
	全日制課程	福祉科

(5) 学生数の状況

令和6年度入学生数

令和6年5月1日現在

科	募集定員	入学者数	学則定員
普通科	90	99	90
美術科	15	11	20
福祉科	15	5	20
計	120	115	130

在学学生数

令和6年5月1日現在

科	1 学年	2 学年	3 学年	計
普通科	100	90	87	277
美術科	12	17	16	45
福祉科	5	7	4	16
計	117	114	107	338

(6) 卒業生数

(令和6年4月1日現)

文化華道学院・松本高等家政学校・昭和高等実業学校	532 名
昭和園芸高等学校	1,919 名
エクセラン高等学校	2,228 名
卒業生総数	4,679 名

(7) 充足率(%) (在籍数÷募集定員数×100)

令和6年5月1日現在

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
普通科	103.0	100.4	92.9	90.0	99.6	110
美術科	77.8	84.4	84.4	91.1	102.2	73.3
福祉科	51.1	62.2	73.3	73.3	55.6	26.6

(8) 役員の概要

	定員	現員数	欠員数
理事	9	8	1
監事	2	2	0

15期役員氏名 (令和4年6月1日～令和7年5月31日)

令和7年3月31日現在

区分	氏 名	摘 要
理事長	本 郷 一 彦	令和4年6月就任 理事長 当法人と利害関係なし
1号理事	西 沢 宏	令和2年4月就任 学校長 当法人と利害関係なし
2号理事	草 間 龍 也	令和4年6月就任 4期目 当法人と利害関係なし
〃	五 味 秀 彦	令和4年6月就任 4期目 当法人と利害関係なし
3号理事	安 藤 善 二	令和4年4月就任 2期目 当法人と利害関係なし

〃	小 林 磨 史	令和 4 年 6 月就任 2 期目	当法人与利害関係なし
〃	土手内 俊 夫	令和 4 年 6 月就任 5 期目	当法人与利害関係なし
〃	花 岡 豪	令和 4 年 6 月就任 1 期目	当法人与利害関係なし
監 事	富 永 正 道	令和 4 年 6 月就任 4 期目	当法人与利害関係なし
〃	丸 山 祐 弘	令和 4 年 6 月就任 3 期目	当法人与利害関係なし

(9) 評議員の概要

(任期；令和 4 年 6 月 1 日～令和 7 年 5 月 31 日)

定数； 23 名 欠員 3 名 現員数 21 名

相澤 孝夫	西沢 宏	伊藤 覚	井上 保
大久保昭文	草間 龍也	小林 圭子	小林 眞一
五味 秀彦	柴崎 真一	白木 總一	菅沼 和子
欠員	滝沢 具幸	宮川みさ子	保尊 権一
本郷 一彦	松倉 政子	百瀬 正容	宮澤志づ江
横林 和俊	欠員	欠員	

(10) 令和 6 年度職員の概要

令和 6 年 5 月 1 日現在

区 分	教 員	職 員	校医薬・他	合 計
常 勤	32	4	0	36
非常勤	8	1	8	17
計	40	5	8	53

(11) 施設設備の概要

令和 6 年 3 月 31 日現在

区 分		面積(m ²)	適用
校 地	保有地	9204. 62	
	借用地	3656. 4	
建 物	校 舎	6553. 18	
	その他		

(12) その他

- (1) 姉妹校 国立彰化女子高級中学校 (台湾彰化県彰化市光復路 62 號)
(2) 高大連携 長野大学・松本大学・松商短大

2. 事業の概要

(1) 教育方針

①生徒受け入れ方針

従来から多様な生徒に「我が子として入学から一生涯を」の教育理念の下、少人数の学習集団で体験的・総合的な学習活動により生徒への支援を実践するため、インクルーシブな受け入れをする。永年継続して来たこの教育方針は、中学校や地域社会からも一定の評価と理解が得られているので、松本市をはじめ諸団体からの連携や活動依頼にも積極的に対応していく。

② 教学及び情報公開等 (監査・評価・改善等)

③ 教育課程編成

教育方針具現化（少人数でわかる授業）のための教育課程を編成している。

1 年生には、習熟度別授業を取り入れクラス数を増加して少人数化を図る。

2 年生からは、普通科にコース制・美術科には専攻別を取り入れて少人数化を図る。

④ 海外研修旅行について

本校生徒の教場は、「実体験を伴う教室を含めたあらゆるところが学ぶ場所である」の教育方針下で、姉妹校交流とホームステイを中心とした海外研修旅行は従来から大切にしてきたが、令和 5 年度も全世界で猛威を振るった新型コロナウイルスの感染防止のため 3 科共に中断を余儀なくされた。

＜普通科＞平成 7 年から実施している海外旅行は、平成 12 年よりホームステイを 2 泊と現地高校生との交流を取り入れた研修旅行へと大きく方向転換させた。積極的なコミュニケーション活動を主体的に行うことにより生徒達は意思伝達の大切さを体得し、その達成感と共に自信の獲得にも大きく寄与している。今後は、国際交流推進の観点のみならず生徒自身の成長のために平成 24 年に提携した姉妹校の国立彰化女子高級中学校との交流を大切にしたい研修旅行復活を目指したい。

＜福祉科＞専門的な研修を求めて、先進国（北欧）での研修をしたいという生徒達の強い要望があり法人としても長年研究をしてきた。令和元年 11 月に 1 回目のデンマークへの研修旅行を実施し、福祉施設見学や高校生との交流、現地スコーレ（国民学校）での「デンマークの福祉に対する考え方」等の講義を受けたりアンデルセンの生家を見学する等実り多い研修が出来た。隔年で実施予定であった令和 3 年の第 2 回目は、コロナウィルスの流行で見送った。令和 4～5 年もコロナの渦中にあり又円安に加えて航路もロシアの上空を飛行できない影響もあって航空運賃の高騰と逆風の中、中止。令和 5 年 10 月には 2 回目となるデンマークのノーフェンス高等学校生 19 名（交流校）を受け入れた。

＜美術科＞科の特色を生かし、長年続けて来たパリへの研修旅行はテロ事件で 5 年間中断後、ヨーロッパの治安の回復もあり令和元年 11 月福祉科と同時に復活させた。こちらも福祉科と同様の理由により再び中断している。科内で「科の特色を生かした研修旅行」を検討する雰囲気があり支援したい。

⑤ 計画検討中の施設設備について

教育環境の整備は最重要課題と捉え法人の安定的な経営を睨みながら周年事業として充実努めてきた。今後も施設設備の延命化を図りつつ整備を計画的に進めていく。中長期計画で重点目標に挙げてきた校地の拡充は、令和 5 年度にガラス温室の移転候補地の一部となる土地 210.39 m²を取得し、運動場を予定する小岩井氏の土地については借用することで話がまとまり、計画に位置付けてきた土地の約 80%が解決しているので 80 周年記念事業に向けて大きく前進している。

(3) 支援活動

① PTA・振興会

PTA・振興会総会には、毎年 50%を超す会員の皆さんが参加する状況が定着している。

公開講座や合唱フェスティバル・強歩大会等生徒の学習活動にも当事者として参加することで、学校の方針や状況をより深く理解し、建設的な提言を頂いてきた。PTA総会やPTA研修旅行等はコロナ禍以前の状態に復活させた。

振興会は、卒業生の保護者が中心となり本校の教育環境を整備することを目的に結成された組織であり、校舎の改築や校地の拡充のための資金を計画的に積み立てている。

② 同窓会活動

同窓会総会等活動への参加者数は多くは無いが、日頃学校を訪れる卒業生は多く母校を想う気持ちの強い卒業生が多い。このような卒業生を束ねる同窓会の力は、我が校にとっては大切である。「入学から一生涯を」は我が校のモットーであり、教職員と卒業生が一生涯を通じて響き合える絆は本校教育の根幹をなすものであり大切にしたい。

③ 花いっぱい運動

松本で始まった花いっぱい運動の当初から関わりを持った、本学園創立者で初代理事長の故土手内頼人氏の熱心な取り組みは、大きな推進力となり影響力を及ぼした。学校のエデュケーションと相通じることもあり、花壇の管理や助言、さらにはフラワーコンテスト、花壇コンクール等各種審査員の派遣等、積極的に関わりを持ってきた。松本の地に根を下ろす本校が、松本から全国へさらに世界にまで発展してきたこの運動を大切にしながら幅広く環境問題にまで発展させて来た教育活動を地域に開かれた学校づくりの意味からもさらに大切にしたい。

④ 松本芸術文化協会

第2代の理事長故土手内始男(白樹)氏が日本画を修め、美術科誕生のきっかけにもなったこともあって松本芸術文化協会の活動を支援してきた。芸文協の理事をはじめ各種展覧会の審査員として本校教員が積極的に関与するこの活動を支援することは、文化の発信基地としての存在意味からも大切であると考えます。

(4) 広報活動

開かれた学校づくりを推進するため、日頃の活動状況を発信し地域社会の方々に理解を深めてもらう活動は、法人にとっても大切な解放活動の一つである。効果的な情報発信は、様々なメディアを積極的に活用することが求められるが限られた予算の中で、紙媒体を中心に積極的に利用してきた。

① 学校アピール広告

「美術科卒業展」 MGプレス

② 入試告知広告 信濃毎日新聞・市民タイムス・タウン情報

③ 儀礼広告 年賀・暑中見舞い(信毎・市民タイムス・県民新聞広告)

④ その他 ニュースとして

(5) 学習活動等の概要

① 普通科

「国際理解」「環境科学」「生活文化」「園芸農業」4コース制

ア. 普通科の年間活動目標

- ・生徒自らが学校は有意義な場所であると自覚できる教育を展開する。
- ・楽しくわかる授業を実践し、学び合うことを味わえる集団づくりや人間関係づくりを重視する。

イ. 普通科の重点課題

- ・社会適応力を養成していく。
- ・あいさつ礼儀の徹底。対外学習機会の充実→ 校外活動への積極的参加)
- ・すべての生徒の基礎学力を定着させる。

ウ. 教育課程の研究に取組みより充実した教育内容を模索する。

- ・園芸農業の技術・知識習得を通し、逞しい人間力・社会人力の定着を図る。
- ・調理・服飾の専門知識・技能の習得を中心に保育・介護等家庭生活力の伸長を図る。
- ・環境保全に寄与する態度の育成。(環境)
- ・日本文化・伝統の理解と異国文化(世界)の理解。使える外国語(英語)の習得。

エ. 具現化に向けた取組み

- ・インクルーシブな学習環境における「学び合い」を実践する。「国際理解」「環境科学」「生活文化」コースの学習発表会は横から縦に学習を広げる取り組みで生徒のプレゼンテーション能力を高めると共に生徒自身の学習目標も明確にする。
- ・校外活動の活発化。外部団体との共同活動。→ 継続のものはより内容の充実へ新規のものを開拓する。

② 美術科

ア. 美術科の年間活動目標 困難にめげない強い心を持つ生徒の育成

イ. 期待する生徒像・理念

素描を基本に、徹底した基礎力・表現力を専門分野に生かした進路実現が出来る能力を身につけ、自ら考え行動でき、美術科生としてのプライドを持って将来社会貢献できる人材の育成

ウ. 今年度活動目標・重点課題・具現化する取組み

- ・「個」の育成・充実・集中力と反復力を付ける。・自分で判断できる思考力をつける。
- ・美術における基礎・基本内容を個々や全体で徹底的に理解・修得・実践でき、協働することや表現において他者理解が出来るなどコミュニケーション力をつける。
- ・講評に相互鑑賞を取り入れるなどして実のある振り返り学習を展開する。

エ. 将来の目標を持ち、学力向上・進路実現へ

◎学力をつける。

- ・模試の積極的実施
- ・センター試験では受験者増→受験者全員 6割を目指す→入試研究・調査・学科充実
- ・一般受験者→強い精神力を・一般受験者の卒制との両立実現サポート
- ・進路先の開拓：自ら主体的に情報を取り入れる力をつける。

③ 福祉科

ア. 福祉科の年間活動目標

『介護福祉士の養成（資格取得の実現）』

『福祉マインドの育成』

『社会貢献できる人材を育成する』

- ・体験学習から、自ら考える力を身に付ける。
- ・福祉科の外部での活動に力を入れる。
- ・国家試験に対応できる学力をつける。

イ. 結果と課題

- ・入学者数は、平成21年介護福祉士養成指定校（新カリ）への移行後確実に増加し

て

来ていたが令和4, 5, 6, 7, 年度の連続4年間は、定員の50%を割っている。

- ・福井県の介護技術コンテストを2名が見学する等外部活動にも取組めた。

- ・入学生は、高い目的意識を持っており積極的に学習や活動に参加し、介護福祉士

の

合格率も確実に向上（H23年以前は平均24.6%）していて89.2%に達している。

参考資料（現役合格率）

卒業年度	入学者数	卒業生数	卒時合格数	合格率	備考	取得令7.3.31
平成15	7	6	0	0%		1

平成 16	5	4	1	25.0%		1
平成 17	7	6	2	33.3%		2
平成 18	13	5	1	20.0%		1
平成 19	8	9	3	33.3%		3
平成 20	10	8	1	12.5%		4
平成 21	12	10	3	30.0%		9
平成 22	7	5	2	40.0%		4
平成 23	11	7	5	71.4%	新カリ移行	6
平成 24	18	18	10	55.6%		13
平成 25	13	11	11	100%		11
平成 26	21	21	16	76.2%		17
平成 27	14	13	13	100%		13
平成 28	17	15	14	93.3%		14
平成 29	9	9	8	88.9%		9
平成 30	17	14	13	92.9%	受験者 14	15
令和元年	11	7	6	85.7%		6
令和 2 年	10	8	6	100%	受験者 6	8
令和 3 年	9	5	5	100%	受験者 5	5
令和 4 年	14	13	13	100%	受験者 13	13
令和 5 年	14	13	11	84.6%		11
令和 6 年	7	4	3	100%	受験者 3	3
計	261	211	147	65.6%		169
新カリ以降	192	158	134	89.2%	平成 23 年以降	144

④ 教育職員の取組み

入学してくる生徒一人一人のスタート地点は、ばらつきが大きいのでわかる授業・身に着く授業の工夫と展開に努め、生徒一人一人の要望に応えると共に本校のステータスを高めるため既成概念を取り払ったプロとしての指導力をさらに高めたい。

⑤ 開かれた学校づくりへの取り組み

ア. 公共団体など地域諸団体との連携、更に校外へ出て鉢花の販売や苗の頒布、福祉科のボランティア活動・美術科の活動等を通し、地域から愛され必要とされる学校づくりに努め、文化の発信基地としての力を更に高めたい。

イ. 公開授業 学内向け・地域社会向けにスケジュールの込み合う中で積極的に取り組んでだが永年続けて来た寄せ植え講座等が今年度も中止に追い込まれた。しかし、生徒が製作した寄せ植え作品の販売は好評で 30 分間で完売している。

ウ. 学校評価 学校改善に繋げるため、学外の 8 名に評価委員を委嘱し、年 2 回それぞれの立場から授業及び行事・生徒会活動や生活面、生徒の学外活動等について率直な意見や評価を求め改善に生かしている。